

今回は発達障害について一般的なことから考えました。今月と来月で、現代においてしばしば注目される二つの発達障害(自閉スペクトラム症と注意欠如多動症)について順番に考えてみましょう。今月は自閉スペクトラム症(ASD)を取り上げます。「空気読めない」「アスペ」などと一般の人の間で言われますが、そのような捉え方になる背景について考えてみましょう。

日本で問題になりやすい

ASD を持つ人の特徴は、会話することが難しい、こだわりが強いなどです。背景には想像力の問題があります。背景事情や今後の可能性を想像できないので、会話についていくのが難しくなったり、やり方を変えることが不安になったりするわけです。

こうした特徴は暗黙の了解でみんなに合わせることを困難にします。日本社会は、みんなと同じようにしなければならないという暗黙の同調圧力が強いですね。すると、少しでも自閉的な傾向があると、すぐに「浮いてしまう」ことになります。

たとえば個人主義が浸透した欧米だと、一人一人が違うのは当たり前だと思われているので、多少、自閉的な傾向があっても、その人のあり方として特段、問題にされないかもしれません。

つまり、ASD は日本社会で問題化しやすいのです。



その特徴って実は・・・

日本社会ではみんなと違うことをして浮いてしまうことが恐れられます。それに対する予防策として前例主義があります。キホン、前と同じやり方をするのです。これは状況が変わっていない限り効率的に物事を進められますが、変化に対して強い抵抗となります。日本の組織で、前例がないという理由で却下されることはよくあります。何かを変えるとき前例がないのは当たり前で、問題はその変化がどんな未来をもたらすか、だと思のですが・・・

ところで、この変化を恐れることや、未来を考えずに今までのやり方にこだわることって、何かに似てますね。そうです、ASD の特徴です。もしかすると、日本社会が自閉的傾向を持っていることに無自覚なので、「みんな」とは違う ASD の方を理解することが難しいという面があるのかもしれません。

